

【概要版用語集】

あ行

用 語	説 明
AI	Artificial Intelligence の略。人工知能のこと。
インバウンド	外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。
大系線プロモーション事業	大系線の「列車での移動価値」を訴求するプロモーションサイトとして、車での移動では味わえない大系線や沿線の魅力を映像等で伝え、大系線に乗車したからこそ楽しめること等をコンテンツとして発信する事業。

か行

用 語	説 明
カーシェアリング	1 台の自動車を、複数の人が、共同で使うこと。
グリーンスローモビリティ	時速 20km 未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称。導入により、地域が抱える様々な交通の課題の解決や低炭素型交通の確立が期待される。
コンパクトカー	5 ナンバーで全長 4.2m、エンジンの排気量が 1,500cc 以下というのが大まかなコンパクトカーの基準。

さ行

用 語	説 明
自動運転技術	ドライバー（人間）が行っている、認知、判断、運転操作（加速、操舵、制動など）といった行為を、人間の代わりにシステム（機械）が行うもので、GPS やカメラ、レーダーやセンサーなど様々な計測装置や情報通信技術を駆使し、道路の白線や、クルマやヒトなどの移動体・構造物を始めとする道路上の周囲環境を読み取りながら、運転操作の自動制御につなげるものである。日本では、自動運転のレベルを 0～5 までの 6 段階とし、段階的に実現を目指している。
JSTS-D	「日本版持続可能な観光ガイドライン (Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations, JSTS-D)」 持続可能な観光の推進のため、各地方自治体や DMO が多面的な現状把握の結果に基づき、持続可能な観光地マネジメントを行うための観光指標。観光庁が令和 2 年に策定した。
シェアサイクル	一定のエリア内に複数配置された自転車の貸出・返却拠点（シェアサイクルポート）において、自転車を自由に貸出・返却できる交通手段のこと。

用 語	説 明
GX	Green Transformation（グリーントランスフォーメーション）の略語。化石エネルギー中心の産業・社会構造を、クリーンエネルギー中心の構造に転換していく、経済社会システム全体の改革への取り組み。
次世代空モビリティ	ジェット機のような内燃機関を使用せず電力とコンピュータ制御技術を活用した小型航空機である。「動力が電動モーターであること」「操縦士のいない自動操縦が可能であること」「垂直離着陸が可能であること」が次世代エアモビリティを定義する条件とされている。
ゼロカーボン	企業や家庭が排出する二酸化炭素をはじめとする温室効果ガス（カーボン）の「排出量」から、植林・森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、排出量の合計を実質的にゼロにすること。

た行

用 語	説 明
地域公共交通	地域住民の日常生活若しくは社会生活における移動又は観光旅客その他の当該地域を来訪する者の移動のための交通手段として利用される公共交通機関のこと。
DX	デジタル技術を駆使して交通システム全体を革新し、移動の利便性、効率性、持続可能性を飛躍的に向上させようとする取り組み。
低炭素化	地球温暖化問題を解決するため、CO2 などの温室効果ガスの排出を抑えること。

ら行

用 語	説 明
ライドシェア	公共ライドシェアは、バス事業やタクシー事業によって輸送手段を確保することが困難な場合、市町村や NPO 法人などが、自家用車を活用して提供する有償の旅客運送を公共ライドシェアと呼び、省令において「交通空白地有償運送」と「福祉有償運送」の2つを規定している。 日本版ライドシェアは、地域交通の「担い手」「移動の足」不足解消のため、令和6年3月、タクシー事業者の管理の下で、自家用車・一般ドライバーを活用した運送サービスの提供を可能とする日本版ライドシェアを創設した。タクシー配車アプリデータ等を活用して、タクシーが不足する地域・時期・時間帯を特定し、地域の自家用車・一般ドライバーを活用して不足分を供給している。